# ◇令和2年/2020年9月号 第97号◇



SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION





第37回産経国際書展(東京都美術館)の会場風景(写真下は特別賞受賞作品)



産経新聞社 事業本部長 伊藤富博

# 皆様の一致団結に感謝

新型コロナウイルスの収束がなかなか見通せず、また例年にも増した厳しい猛暑の中、皆様いかがお過ごしでしょうか?体調にはくれぐれも気をつけていただきたいと思います。

東京都美術館での第37回産経国際書展は会員の皆様をはじめ多くの関係者のご支援を賜り、無事に終了することが出来ました。あらためて御礼を申し上げます。

毎日展、読売展が今年は開催しないという 方針を発表するなか、様々な検討を重ねて参 りました。その間、多くの皆様から激励や心配 などご意見、ご指摘を賜りました。最終的には こういう時期だからこそ、書壇や社会を元気 づけるためにも開催したい、という事で書会 幹部の皆様からも了解をいただきました。

結果として、5,000点を超えるご出品を頂いたことや書会幹部、表具店、展示・運営業者、審査会のスタッフなど、産経国際書会に携わる皆様方から一致団結した協力を頂きました。

作品締め切りと審査会を延期し、コロナ対策や審査員、審査会場を変更し、審査会を終え、入賞者への連絡、陳列を経て、展覧会初日を迎えた時は万感迫るものがありました。

異例づくめではありましたが、今年ほど皆様はじめ多くの人に支えていただいた年はありません。このあとの地方展でも万全のコロナ対策で、担当の先生方と十分に相談しながら進めて参ります。

今年は贈賞式、祝賀会をせず、高円宮賞、内閣総理大臣賞などの4賞も選考いたしませんでした。残念な思いをさせてしまいました皆様には心よりお詫び申し上げます。

来年の第38回展は完全な形で開催出来ることを祈りつつ、皆様方の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



度経国際書会 理事長 風岡五城

# コロナの脅威に打ち勝って 展覧会開催

第37回産経国際書展が無事に開催できましたこと、偏に会員の皆様のご支援、ご協力のお陰であると、まずもって厚くお礼を申し上げます。

当初の予定では東京オリンピックと同時期の開催で、大いに盛り上がることを期待していましたが、そのオリンピックは延期となり、審査も大幅な変更により高円宮賞、内閣総理大臣賞、中国大使館文化部賞、韓国文化院長賞の4賞は選出できませんでした。また今回の出品点数は前年比2割減、開催期間中の入場者数も例年の半数以下でした。これらの結果を踏まえれば大成功というわけにはいかないかもしれませんが、何はともあれ新型コロナウイルスの脅威に打ち勝って開催できたことに大きな意義があると思います。

開催できた要因として特に二つのことをここに記しておかねばなりません。一つはコロナの終息が見込めない中でも、可能性がゼロではない限り前向きに進めるという産経新聞社の方針にブレがなかったことです。これは大きな心の支えとなりました。もう一つは理事長代行並びに副理事長の先生方には厳しい条件の下で審査を全うしていただいたことです。まさに決死の思いであられたことでしょう。この場を借りてお礼を申し上げます。

本展の後は9月に東北展、瀬戸内展、そして 11月には中部展、関西展と続きます。無事に開 催できますよう願ってやみません。

最後になりましたが、受賞者の皆様におかれましては、晴れの舞台である贈賞式が開かれないのはさぞや残念なことであろうと、申し訳なく思う次第です。この度の受賞を糧に更なるご発展を祈ります。

第37回産経国際書展は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、開催が危ぶまれていたが、7月27日から8月2日まで、予定通り東京都台東区の上野公園にある東京都美術館で開かれた。総出品数は新型コロナの影響で昨年の約80%となり、5,119点であった。

今年の2月末から猛威を振るった新型コロナウイルスは4月には全国に緊急事態宣言が出されるほどになり、全ての活動がとまった。しかし、産経展の実施に向けて慎重に準備をすすめ開催を目指すこととなった。5月7日の締切を2週間後の5月22日に延ばし、5月下旬に予定されていた審査会は規模、会場を変更し6月下旬に行った。但し、特別選考会は開催しないため高円宮賞、内閣総理大臣賞、中国大使館文化部賞、韓国文化院長賞の4賞は選考することができなかった。

今回の審査は、執行部の風岡五城理事長、坂本香心理事長代行と今田篤洞、勝田晃拓、金丸

鬼山、髙木撫松、髙頭子翠、髙橋照弘、武富明子、正川子葉、松井玲月、松﨑龍翠、村田白葉の 各副理事長の13人で行った。

昨年同様、「書で結ぶ世界と日本」展も開催、アルメニア共和国、タンザニア連合共和国、ブルキナファソ、ラトビア共和国、ルーマニアの5カ国の駐日大使が日本語の「平和」または「希望」にあたる自国の言葉を書作にした。

そして、今年の特別色紙展は高円宮妃殿下から「躍」と「慶」の二文字の御題を頂戴し、80歳以上の会員による色紙展を開催した。色とりどりの色紙55点が飾られた。そして、昨年に引き続き本展のPRとして著名人の書も展示した。タレントの中山秀征さん、岡部まりさん、俳優の松村雄基さん、藤田三保子さんの作品が特別出品された。当初は、開幕式、ギャラリートーク、揮毫会、筆と墨を使ったワークショップなども予定されていたが全て中止となった。 (事務局)

#### 【来年度】第38回展

会期 令和3年7月27日(火)~8月3日(火) ※2日(月)休館 前期7月27日(火)~7月29日(木)、後期7月31日(土)~8月3日(火) 30日(金)が展示替え、1階第3・4室のみ休室

会場 東京都美術館 ロビー階と1階の第1~第4展示室 贈賞式・祝賀会 日時・場所未定



初日の会場、久しぶりの書展で人が集った



5カ国の駐日大使の作品

# 第《37》回 產経国際書展

# ~有難き哉!当たり前でない37回展~

副理事長 勝田晃拓



「世の中は有難く、むずかしげなるもの」…これは源氏物語の一節だが、この「有難し」の反対語「当たり前」…会話や食事し笑い、書も出来る、こんな当たり前と思う事が本当は奇跡の連続だという事実を、我々は初めて思い知らされた。見えない敵に怯える日々、相次ぐ公募展中止によぎる開催不安、自粛下で満足に書けぬ焦り。更に審査日程や方法変更も慣れない少人数での過密作業。判定合図の「ハイ!」は奇妙なラッパ音に変わり、フェイスシールド越しの作品はいつもと違った。飾り付けも遠方人員

を削り過酷さを極め、多くの困難の末に何とか初日を迎えた。見ればコロナ禍を吹き飛ばす気合の力作が会場を埋めた。「やれば何とかなる!」という熱き集合意識のパワーは勿論だが、書作審査、展示観覧、そして感動という奇跡の連続に、「ありがとう」と言わずにはいられない。正に「有ること難し」であり、これを当たり前と思う間は決して感謝の念は生まれないのかも知れない。

追伸: 1234567890 (人は常に密除け コロナ 草 く ゼロへ) と願うばかり!



バラエティに富んだ作品をうまく配置



3行、4行、現代書をバランス良く



作品を見る飯塚浩彦産経新聞社社長、風岡五城理事長、伊藤富博事業本部長(右から)



令和2年は新型コロナウイルスの影響により、私達の生活が思いがけな い展開となりました。

早くから展覧会開催中止を決めた書展が多くあった中、産経国際書展は コロナ感染者増加により直前までヒヤヒヤしたようでしたが、無事に7月 27日に産経展開催初日を迎えました。テープカット、ギャラリートーク、贈 賞式·祝賀会など全てのイベントを中止したことも大きく影響して、入場者 はいつもより遥かに減少しましたが、日毎に感染者が増加する不安な情勢

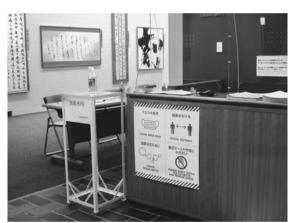
にも拘わらず、ご来場の方々は時間をかけて丁寧にご覧下さいました。会場では、マスク着用を原 則とし入口の他にも所々に消毒液を置く、配布物の手渡しを避けるなど感染予防に配慮しました。 また、展覧会のつど業務に携わって下さる東京部会並びに社中の先生方には今回はお願いせず、ア ルバイトと私が受付の担当をいたしました。

前代未聞の情勢の中をご来場賜りました皆様、また、特別出品の著名人のご来場も、会場に「華」 を添えて下さいました。心より深く御礼を申し上げます。

皆様にはどうぞお身体にお気を付けていただき次の会場で是非お会いいたしましょう。



書を楽しむ人々



新型コロナウイルス感染症対策をした受付風景



松村雄基さん(7月27日来場)



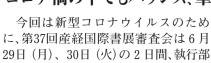
中山秀征さん(7月29日来場)



藤田三保子さん(7月30日来場)



# コロナ禍の中でもバランス、筆力、筆脈に富んだ作品 理事長代行 坂本香心



で行うことになりました。いつもの審査会から考えますとどのような審査になるのか心配でしたが、感染症拡大防止ということもあり、会場は衛生面も行き届き、審査する側と作品との距離感も適度に保たれて良かったと思いました。審査の際、作品の流れが多少時間との関係で早くなるのか、前の作品に注意

しないとかぶってしまいそうな事もありましたが、 2×8作品などは思ったよりもバランスや筆力な どがはっきりと見えて、筆脈などの要素もはっきり と掴めるなど良かったと思いました。二日間での審 査も問題なく終わりました。

上位に選考された皆さんの作品など会場で楽しみに拝見させていただきたいと思いました。まだまだコロナウイルスには油断ができません。皆様充分お気を付けてお過ごしください。



# より良い作品展示をとの思いで

副理事長 金丸鬼山

コロナ禍と言う目に見えないリスク を抱え、多くの書展が中止する中、事務 局は開催を決断、準備を重ねた。執行部

役員の13名での二日間の審査、出来るのだろうかと 言う不安がよぎる。集まった先生方は誰ひとり弱音 をはかず、成功させねばと使命感が伝わってくる。

先生方が集まっており、先生方のご無事を嬉しく思

うとともにこの書展に向かう強い気持ちを感じました。

事務局によるコロナ感染防止処置が取られ、通年通りの準備が進められる。審査員はより良い作品展示をとの思いを持ち審査に臨んでいる。中止、延期による創作意欲や目標を失って書を離れる人がいる。書道文化の危機であり、如何に工夫して展覧会運営をするかが必要。【コロナに負けるな】である。



# 強い気持ちで向かった書展

地球規模の災難の中で第37回展の審

査日程の案内を頂きました。家族が心

配する中、審査会場へ向かうと多くの

副理事長 髙木撫松

審査は新たな仕組みで段取り良く息つく間もない勢いで行われました。コロナのもとでは皆で談笑する事も叶わず、残念ではありましたが、無事、お役目を果たせほっと致しました。関係者の方々へ心より感謝いたします。

# 工夫を重ねた審査

副理事長 髙頭子翠

副理事長 松井玲月

今年は思いもよらぬコロナ禍のため、審査も例年と異なる方法と工夫を 重ね、執行部の先生方で行われました。

マスク着用、大声禁止など緊張感を持って進行し、統率のとれた審査会でありました。各々の担当の皆さ

んの手際よい動き、無駄のない協力体制は、これからの審査会の指針になったと思います。コロナの影響が多大であったとはいえ、出品者の気概に後押しされた結束力の強さを改めて実感しました。事務局の大変なご苦労に感謝いたします。



# 新しい審査の形を 副理事長 髙橋照弘

合理と非合理。両者対極にあるも対峙するに非ず。合理は非合理を含んでいる。審査員は作家的良心に従い 投票し、賞は得点順に充てられる。これは審査員の総意

で尊重されねばならない。危惧するに、時間的・技術的制約はあるが一遍の投票での決定は性急かつ形式主義的であり審査の空洞化を恐れる。候補作次点グループ作をまじえ、大いに議論し再審査を行う場があればと痛感。審査員は義務と責任を更に全うし得ることができよう。



13人全審査員で審査



# コロナ禍の中での審査

安堵した次第です。

コロナ禍の中での例年とは違う新しい審査会ということでどの様に進行するのか、期待と不安な気持ちのまま始

出品点数は、少々減でしたが、作品の傾向として、 皆様、逆風の中で、かえって頑張っていただいたので はと思われる内容で、審査にも力が入りました。貴重 な経験でした。

まった二日間でしたが、あっという間に終了。何か見落としとか問題が起きたりしないか等々の心配はなく、順調に無事に終える事が出来、重責を果たせたと

# 感動と反省の「書 |

副理事長 正川子葉



新型コロナウイルス感染症の蔓延に世界中が恐怖に陥る中、書会の第37回展挙行の決断は日々、書に携わる私の消沈した心に起爆剤を投げ込まれたかの如く、また生来の奮起する前向き人間に変身するきっかけを頂戴しました。しかし、作

品は社中全員未完成で何とか延長された締切ギリギリの出品と相成りました。自分たちの状況から察し、他の社中も多分そこそこだろうと…。とんでもない!意外や意外、素晴らしい作品の数々を目のあたりに拝見し、感動やら反省やら…。こんな時に"差がつくのかと"つくづく考えさせられました。益々世間厳しい中での「書活動」。これから先の対処も考えながら微力ではありますが、日本の伝統書道の発展に寄与する覚悟です。

今改めて、「自分に負けるな」を目標に掲げます。



「密」を避け工夫した審査



# 多難を乗り越えて

第37回展は新型コロナの災禍により、開催内容の変更を余儀なくされた。 こんな時だからこそ、日本が誇る「書芸

術」の力で社会を元気づけたいという書会の思いに 共感した。理事長以下の役員が4賞以外の全ての賞 を選考できたことは良かったと思う。

審査は二日間で、私は漢字と臨書を担当した。出品

副理事長 松﨑龍翠

者の真摯な作品を見て、良いものは良いとの思いで 審査に当たった。伊達政宗賞は漢字・現代書・かなの 全審査員で最後に選考し、審査の全てを終えて散会 した。

27日の開会日に会場に行って見た。立派な作品群に、多難な経緯を偲びながら開催の重要性を痛感し 感動さえ覚えた。



# 他展の中止が相次ぐなか、有意義な展覧会開催 副理事長 村田白葉

第37回展の審査会は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、書会役員(副理事長以上)により行われる事となりま

した。会場もサンケイプラザに変更され審査事務部、 搬出入部の参加は無く、書会事務局、牧野商会、他の スタッフで最小限の人員で運営されました。大変ハ ードなスケジュールでしたが、無事に入賞、入選者が 確定されました。

私は、第16回展以来21年ぶりに審査員を務めさせ

て頂きました。17回展以降は、毎回審査事務部として、審査会に関わって参りましたが、今回はコロナ禍のなか、出品点数も減少という影響も見られました。他の書展の中止が相次ぐなか、「産経展」が開催するという方向で進められた事は、出品者にとりましても作品発表の場が与えられ大変意義深いものがあると思います、贈賞式・祝賀会も中止となり大変残念でしたが、次回38回展が平常通り開催できます様、祈るばかりです。



# コロナ禍の難局を克服して

新型コロナウイルス感染拡大に伴う世の中異常ともいえる 自粛生活で、読売、毎日など有力な書道展が開催中止となった 今夏、第37回産経国際書展が無事開催されたことは画期的な

ことだった。綿密な準備作戦の賜物である。特に書会事務局の奮闘は絶賛される。外出自粛の中、急遽組まれた書会執行部役員による審査会の一員としてお役に立てたことは生涯の記憶に留まることになろう。

小生が担当する図録制作にも影響が及んだ。審査会が予定の1か月遅れとなり従来は裏打ち段階でスタジオ撮影した写真を、今回は表装後に会場で撮影したため作品の鮮明さに欠ける写真があった。特にかな多字数やアクリル入り作品に影響が出たことは残念だった。図録制作の日程にも影響した。地方展開催までに完成するべく8月14日、18日、25日とお盆最中にコロナ、熱中症と戦いつつ図録部員は作業した。部員9名全員の出勤に感謝である。

副理事長 今田篤洞



図録制作もマスク着用で

# 第 37 回 產経国際書展受賞者(敬称略)

高円宮賞

選考せず

内閣総理大臣賞

選考せず

中国大使館文化部賞

選考せず

産経国際 書会会長賞 漢字部門 伊藤 秀泉 (静岡県)

かな部門 鷲

現代書部門

篆刻刻字部門

華陽(大阪府)

秀水 (新潟県)

華子(神奈川県)

韓国文化 院長賞

選考せず

産経国際 書会理事長賞

現代書部門 木村 翆川 (青森県)

星野

三宅

伊達政宗賞

現代書部門 渡辺 龍泉 (山形県)

国際大賞

漢字部門 大竹 翠葉 (愛知県)

# 文部科学大臣賞

現代書部門

渡邉 洋子

# 外務大臣賞

かな部門

須田 紀泉

# 産経大賞

漢字部門

東海林 白扇

# 産経準大賞

漢字部門 小倉 一鳩 漢字部門 小野 秀美 漢字部門 三浦 希韶 かな部門 清田 千桂 現代書部門 加藤 翠苑 現代書部門 中村 未来 臨書部門 箭内 香苑

# 無鑑查会員特別獎励賞

臨書部門

江小坂佐伏宮伊植岡佐中虫大原野井野見崎藤田田々村明橋梢寺曉清香彩君清真木三智栄風聖麗風蘭風代峰由翠寶恵美風

# 太田道灌やまぶき賞

漢字部門 かな部門

新井 瑞鳳 金木 杏花

現代書部門

秦 祐子

# 太宰府天満宮賞

漢字部門

郷司 翠楓

# 無鑑查会員獎励賞

漢字部門 石井 翠香 漢字部門 桑 大樹 漢字部門 福田 圭華 かな部門 坪井 駿泉 現代書部門 可知 悦子 臨書部門 中部 紫苑

# 会友特別賞

〈漢字部門〉 岩倉 瑞季 大河原 紫舟 半谷 松華 森井 爽生 連 由貴子

〈かな部門〉 村井 麻子

〈現代書部門〉 太田 昭華 片山 寿美子 佐伯 百合子 当間 旺風 中島 彩紅

〈臨書部門〉 半谷 松華

## 会友賞

〈漢字部門〉 芦澤 紫峰 石川 光苑 一条 侑琴 一柳 庭華 岩井 玲翠 内村 遊水 加藤 鈴氳 川渕 吏子 木村 幸韻 黒川 良佳 小堀 暁聲 佐藤 龍玉

佐俣 祥苑 志水 香華 鈴木 知夏 髙部 俊曄 中村 城風 羽根田 皋菖

藤島 果那 宮崎 玄煌

〈かな部門〉 岩山 淑子 浦畑 恭子 岡田 佳代子 菊島 克月 北河 光春 塩澤 鈴華

神野 富子 鈴木 瑞 仁科 安博 野呂 卜 ヨ子 松井 秋岳 山崎 深翠

有賀 瑚風 生原 凛々子 石川 水碧 磯田 竹山 岩崎 等 植田 拳 〈現代書部門〉 大里 万亀子 角江 政則 木村 桃里 佐藤 早苗 佐藤 恵 城前 玉香 白板 玉彩 達家 祥琴 津川 えりか 筒井 保子 中村 双琴 西川 遷石

西本 竹風 福田 示陽 正川 子城 松永 梅光 都沢 美雪 山内 恵子

山中 典子 若山 穏空 〈臨書部門〉 須永 清蘭 棚橋 藍水

〈篆刻刻字部門〉 鈴木 陽

## 会友獎励賞

〈漢字部門〉 大森 水苑 鐘築 重治 鈴木 繁子 〈かな部門〉 高山 幸子 萩原 靖子 渡邊 美恵子

〈現代書部門〉 吉田 冬花〈臨書部門〉 伊藤 雅洋

# 一般公募・特別賞

# 東京都知事賞

〈現代書部門〉 武井 紅鳳

# 中国大使館文化部国際友好賞

〈漢字部門〉 查律

# フジテレビジョン賞

〈漢字部門〉 和田 朱里 〈現代書部門〉 河村 雪華 〈臨書部門〉 鈴木 雪華

# 国際賞

〈漢字部門〉 吉岡 松龍

# U23 大賞

〈漢字部門〉 宮澤 天鳳

# 愛知県知事賞

〈漢字部門〉 安田 琳華

# 産経新聞社賞

〈漢字部門〉 市川 柳香 白鷺 富州

〈かな部門〉 須崎 惠石 〈現代書部門〉 腰原 佳惠 廣瀬 天翔

# 〈臨書部門〉 我那覇 喜琉

ニッポン放送賞

〈漢字部門〉 冨永 香代子 〈かな部門〉 鈴木 紫苑 〈現代書部門〉 吉田 悟

# U23 奨励賞

〈漢字部門〉 上嶋 天嶺 〈かな部門〉 小松 るか

# 第37回產経国際書展 受

# 受賞者 喜びの声

(敬称略)



## 伊達政宗賞 渡辺 龍泉

この度身に余る賞を戴くことが出来、驚きと共に有り難く感謝の気持ちで一杯です。

今回は、コロナ感染症拡大のなか本当に産経展が実施されるのかという疑心暗鬼の中での作品制作でありました。今後とも感動する書作品を目指してさらに精進を重ね、会発展のために尽力していく所存です。



## 産経国際書会会長賞 伊藤 秀泉

この度は身に余る栄えある賞を頂き誠にありがとうございます。今回は運筆を見直し、力まず筆触を楽しみながら書くことができました。この気付きは私の師、勝田 晃拓会長のお陰と感謝しております。緊急事態の中、ご尽力下さった諸先生方、産経 国際書会の皆様には深く心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 産経国際書会会長賞 星野 秀水

受賞を知った時、とても驚きました。大変嬉しく感じています。

世界中がコロナの影響で大変な時なのでどうしても心が暗くなってしまいます。しかしこんな時だからこそ、元気よく書かなくてはと思いました。髙橋照弘先生、ご指導ありがとうございました。心より感謝いたします。これからも更に書作品の技術向上を目指していきたいと思います。



# 産経国際書会会長賞 鷲 華陽

受賞の報を受け驚きともに身の引き締まる思いでいっぱいです。今回の受賞は 正川子葉先生の熱心なご指導と社中の皆さまの支えのお陰と感謝しております。 まだまだ実力不足ではありますが、これからも皆さまに支えていただきながら書 の道を歩んで行きたいと思います。ありがとうございました。



# 産経国際書会理事長賞 木村 翆川

この度は、身に余る大きな賞をいただきまして誠にありがとうございます。驚きと嬉しさで一杯です。これもひとえに臨泉会会長佐々木月花先生、会長代行原田圭泉先生、恩師の夏堀竹翠先生はじめ諸先生方の長年に亘るご指導のお陰と心から御礼申し上げます。

この賞を大きな励みに、一歩一歩精進して参りたいと思います。

# 産経国際書会理事長賞 三宅 華子



受賞の報を受け、喜びと同時に個人出品の私が理事長賞を頂けたことに驚きました。産経国際書会の素晴らしい理念と、選んで下さった諸先生方に感謝申し上げます。篆刻七十二候は自粛期間中、寝食を忘れて制作しました。書は困難な状況下でも時間を忘れて打ち込める大切な存在です。この賞を励みに一層精進いたします。



## 国際大賞 大竹 翠葉

素晴らしい賞を頂き大変光栄に存じます。風岡五城先生より受賞のお知らせを頂きましたが、夢か現か未だに信じられません。

私を温かくご指導くださる先生、いつも優しく見守ってくれる宏道書会の皆様方に感謝申し上げます。また今後は、賞に恥じぬよう、一層精進してまいります。有難うございました。



## 文部科学大臣賞 渡邉 洋子

この度、思いがけない受賞に驚きと共に身の引き締まる思いで一杯です。コロナ禍での受賞、忘れられないものとなりました。書成会田村名誉会長はじめ諸先生方の長年にわたるご指導のお陰と感謝申し上げます。これを励みに精進して参ります。ありがとうございました。



# 外務大臣賞 須田 紀泉

第37回産経国際書展において栄誉ある外務大臣賞を賜りありがとうございます。 コロナ禍で気分の沈む日々に嬉しいお知らせでした。今回は、紙に対する筆の墨の 含ませ加減、速度等に工夫を重ねました。まだまだ未熟な私です。賞に恥じぬよう精 進して参る所存です。

産経国際書展の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。



# 産経大賞 東海林白扇

この度は「産経大賞」を戴きまして身に余る光栄に存じます。なかなか賞に縁が無く途中、心が折れかかりながらも長く続けて来たご褒美と素直に喜び、またこれからも精進していくようにと励ましの賞だと思いました。最後になりましたが産経国際書会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

# 2020産経ジュニア書道コンクールを振り返って

コロナによる自主規制となった。日々の生活は不自由を強いられている。世の重苦しい空気の中、今こそ書の力をもって清風を興し明るい話題を発信すべきと開催を英断。同時に作品は集まるかと不安が擡げてきた。不安を抱えての開始。学習の場を確保できない状況下全国から多くの作品が届きました。先生方の力強いご支援を得て開催できましたこと心より感謝し御礼申し上げます。出点総数5,571点。昨年の半数強でした。しかし半数以上も集まったと前向きに捉えるべきかと考えます。展覧会場で母子の会話を耳にしました。「展覧会をやってもらってよかったね」と笑顔が印象的でした。教育部一丸となって心新たに次回展に向け進めていきます。



実行委員会審査長 教育部担当副理事長 髙橋照弘

「2020産経ジュニア書道コンクール」は新型コロナウイルス感染症拡大の為、審査会を教育部会のメンバーを中心に行い、7月27日(月)~8月2日(日)、東京都美術館2階第4展示室で開催しました。高校生部門の入選だけは前期、後期の展示替えを行いましたが、それ以外の応募作品はすべて通期展示としました。審査は6月17、18日に以下のメンバーで行われました。【審査長】髙橋照弘、【実行委員長】眞田朱燕、【審査員】勝田晃拓、小池雅游、髙野彩雲、長谷川明扇、星野葉柳、前田恵泉、宮平翠玲(五十音順・敬称略)=事務局



感染症対策をしてお出迎え



産経新聞社賞など特別賞がずらり



圧巻の作品展示

#### ●特別賞(中学生以下)

文部科学大臣賞小出充隼 (岡山県・岡山県立倉敷天城中学校)ジュニア大賞都倉理乃 (兵庫県・小野市立来住小学校)

東京都知事賞 浅井菜々穂(東京都・江戸川区立小岩第二中学校)

埼玉県知事賞 石黒愛佳 (埼玉県・入間市立武蔵中学校) 千葉県知事賞 吉野舞桜 (千葉県・柏市立西原中学校) 神奈川県知事賞 関莉果 (神奈川県・青山学院横浜英和中学校) 産経新聞社賞 越前はな乃 (岩手県・岩手大学教育学部附属中学校)

産経新聞社賞 新保心菜(新潟県・新潟大学附属長岡小学校) 産経新聞社賞 石倉さわ(神奈川県・横浜市立日吉南小学校) 産経新聞社賞 森田湖々(岡山県・笠岡市立笠岡東中学校) 産経国際書会理事長賞 宮先里奈(兵庫県・小野市立小野中学校) 産経国際書会理事長賞 本田幸音(兵庫県・小野市立旭丘中学校)

フジテレビジョン賞 梅田梨里 (岡山県・岡山県倉敷市立玉島小学校) フジテレビジョン賞 渡辺果歩 (岩手県・岩手大学教育学部付属中学校) ニッポン放送賞 小野心丸知 (愛知県・名古屋市立沢上中学校) ニッポン放送賞 田村菜々海 (青森県・八戸市立白山台中学校)

国際努力賞 Ami Nash (東京都・ブリティッシュ・スクール・イン・東京)

国際努力賞 山﨑小冬 (ドイツ・フランクフルト日本人国際学校)



東京都知事賞を受賞する 浅井菜々穂さん

#### ●ジュニア曽(中学生以下)

#### A部門

阿部琥太朗、阿部琴美、荒木夢佳、有友瑞希、池田光希、市川侑奈、一木瑛哉、牛尾華萠、大江和花奈、岡田紗季、 角濱蒼、川村莉央、川本美咲、近藤成美、齋藤美空、酒井埜愛、佐藤要多、佐野小春、地主琉那、鷲見完、髙林聖 羅、竹田結月、田中碧、百目木優希、名倉奈々、橋本妃菜、早坂彩花、久松杏奈、藤巻美生、前田かのこ、松島優 香、松田葉月、三谷ことね、三野裕葉、米澤拓真、渡邉まみな

#### B部門

岡田ひなた、小松朱里、近納生吹、竹下陽子、畑中望来、平間由那、宮岡実花、山下賢一

#### ◎いきいき賞(中学生以下)

#### A部門

阿部颯二朗、池田和真、石川結萌、井上朱莉、大橋花、五條紀実花、相良陽菜、鈴木麻友、鈴木莉彩、高木美乃莉、長井美弥、那須美海、野呂瞬翔、長谷川侑咲、平田紗織、本間陽菜、松本歩華、廻真奈、吉田萌花、若林勇貴 B部門

井上千尋、梅原悠生、大橋桃花、木村菜都美、櫻井美月、白川晴太、杉原真帆、田村夏鈴、坪本陽詩、三羽優天菜

#### ┃◎特別賞(高校生)

産経新聞社賞 赤坂遥南 (青森県・青森県立五所川原高校) 産経新聞社賞 石原明幸美 (愛知県・愛知県立津島高校) 金原葉奈 (静岡県・浜松市立高校) 産経新聞社賞 産経新聞社賞 古村倖奈 (兵庫県・兵庫県立出石高校) 其田友佳 (富山県·富山国際大学付属高校) 産経新聞社賞 産経国際書会理事長賞 竹部舞 (兵庫県・兵庫県立小野高校) 産経国際書会理事長賞 吉武和奏(福岡県・福岡県立福岡高校) 国際友好賞 謝紀婕(台湾・高雄市立中山高級中学)

#### ◎高校生奨励賞

#### A部門

石川菜々、邱霱、小林葵斗、齋藤未緒、鈴木温子、須永聖七、滝沢涼也、永瀬優月、松村咲、村松明音、山田美月、 吉田彩生

#### B部門

赤間愛、朝井晴夏、天野真侑楓、荒井理紗子、池上侑那、上田清香、内山桜、大嶋えりか、大髙桜、大瀧夏葉、柿澤真成、小竹亜美、相楽菜緒、櫻木香奈絵、城谷美羽、長友満里奈、永松彩織、根岸知可、華石翔名、春林実里、東拓真、藤崎茉、渕上瑞紀、松本夏果

# 書と私

▷浅みどりの空うららかな日長の午後、御簾を 巻上げ、心静かに筆をとる光源氏(39歳春) 4月には目出度く東宮妃として参内が決まった 最愛しい娘明石の姫君の為に調度として持たせ るもの、薫粉で書物については念を込めて、名人 の書に加えて当代の名だたる人々にも書かせ給 い、無論のこと源氏の君もひそかな自信と共に …。

▶令和2年春、コロナ禍によって世は異常な事態に。自身は37回の本展出陳のために上の"源氏物語梅ヶ枝の巻"を書すことで平安の御代を偲び、欝々たる気分も些かは晴れる思いではあった。

▷興味あって古書店で、昭和12年発行の『文検習字科精義』なる本を入手した。明治18年から昭和24年まで実施された国家試験「文部省検定」についてで、合格すれば、ほぼ無条件で教員免許が取得出来るという制度であった。当時は教員免許そのものも然り乍ら、書人仲間にあって大変なステータスであり、挙って受験に臨んだようだが、何しろ難関をもって知られたもので年間合格者は50名にも満たなかったらしい。

その内容の大概は、予備試験が4時間、更に日を改めての本試験と成っており揮毫実技・書教養問題、加えて様々な口述試験等3時間というものであった。

我が師吉井天外もこの文検合格者のひとりで、依って長年に亘り名門灘高で教鞭をとられてもいたのである。時々は師から東京に於ける本試験の様子を聞いたりしたが、口答試験の折には、室に尾上柴舟博士や比田井天来翁ら錚々何名もの先生方の面前、中国・日本の古典が開かれ片っ端からの質問、その時代、帖の名前は、筆者はと矢継早に解説を求められ、途轍も無い緊張を強いられたものであったという。

▷戦後に至るまで、書道は主として教養、実用 のものとして広く行われていたのだが、戦後に 常任顧問 今口 鷺外



は大きな変化がやって来る。"書"が日展に第五 科として入り(昭和23年)、即ち書が漸く芸術と して認められ歩き始める時を迎えたのである。

以来多方面での需要、活躍が高まり空前の書 道ブームと相成ったのである。

思えば、先の文検を見ても明治以来の書人達の書に対するモチベーションの高さ、その精進ぶりは驚嘆の外はない。そして、教育書道中心であった処から戦後における展覧会書では数多の巨人達が現れ、心に強く残るような数々の名作を創り出し、半世紀前の私共にとっては憧憬以外の何ものでもなく、展示会場で又各種の本などに、それこそ大いに心ときめかせたものであった。

▶折も折、早や37年前ということになるのだが、 当時立ち上がった産経展に共感し、私共も毎日 展の方から編入参加。以来産経にあって大先輩 達から多くの益を受けたこと、悲喜交々沢山の 思い出と共に、本当に多くを学ばせて頂いたと いうのが強い実感としてある。それは長く続い た書道ブームの中で、憧れの作品を夢中になっ て追いかけるように愉しませて頂いた年月とい うことなのでもある。

結果気が付けば、自身は馬齢重ねて未だ先途程遠しの感。人の一生は誠に儚いものと言わねばならないが、幸い私達には、たとえば古典により書という追体験のし易い媒体によって千年単位での渉猟が許され、大仰に言えば、時空を超えた楽しみを得ていると言えるのではないだろうか?例えば、師吉井天外は、屡々「上代の仮名を日がな臨書していると、時に原帖の手の一瞬の小さな揺らぎで、その刹那部屋に誰かが入ってきたらしい、という気配を感じたりするんだよ」と仰っていた。自身のことでは巻頭の

"源氏物語"の場面宛ら静かに筆をとることで、同様の手応えを覚え時空を超えたひと時を共有したり…と。

▶今日、書は一種芸術的魅力・役割をも備えようとしている。ところが誠に皮肉なことに、本来の実用、調度、そして広くインテリアとしての需要は些かお寒い状況となりつつあるのは残念乍ら否めぬ事実である。

▷元来書は往々他人の詩や歌などを借りて作品とする。それ故出典の内容如何に左右されるのは道理。故に基本的には解読可能にしてこそ見るものの共感を呼ぶであろう。加えて更には書の持つ造形美や、線の美しさ等で魅せたいなど、様々な考え方の集大成が只今の産経をはじめとする書壇の在り様なのであろう。

書は他のものに比して実は修業(?)期間の 長いものと思っている。タテ・ヨコの美しき線 の引き方から始まって、それこそ王羲之、欧陽 詢と過去二千年程の古典学習、加えて我朝の仮 名等々学ぶに暇もあらずという風で、そんな 数多の古典を習ううちに自ずと奇麗な字が書 け、更には自然と個性滲むが如き書風も生まれ ようという寸法なのである。古典ということで 言えば、願わくば文学的素養、更には絵画・音楽等他のジャンルのものにより「美的感性を大いに磨いていこう…」等々。

鳴呼、「これは大変な道に迷い込んだものよ」と初学の方々憂慮する事勿れ、断言出来るのは、今日只今のレベルから遥かな高みに至るまで、筆を執りその弾力を通して紙と対話する、という類無き魅力は絶大なものであり、小生なんぞは筆を折る位なら死んだ方がマシ…などと大袈裟でなく思っているのダ!

書道史上のあの人、彼の人と目指す偉大な先人の技量に迫り、実技的にも名人達の書と見分け難きまでに成り度いものと切に願い、一方作品創りにあっては、それこそ一作一面貌、他の誰でもない自身の内なるを表出せるインタレストなものでありたいなどと、己に残された時間の少なきを承知しながらも、斯く上はと欲張りな堂々の爺様と相成って、時に走り廻ったり、且は又終日寓居に閉じ籠ってと、小生なりの他愛もなき浪漫を追い続けているという為体の日々なのデス。

それにしても此度のコロナ禍による誠に不本意な時の流れは…と大嘆息の毎日を過ごしながら、会員諸氏の益々の御自愛と、何より一日も早い産経国際書会本来の活動再開をと、祈念しつつもの長舌駄文と成って了いました。何卒のご容赦を。



The first of the second of the

A Company of the Comp

The state of the s

Section of the sectio

The state of the s

源氏物語 梅ケ枝の巻

# 第 37

# 回 產経国際書展"新春展"募集要項

## 開催要項(概要)

【名 称】 第37回產経国際書展"新春展"

【主 催】 産経国際書会 産経新聞社

【会 期】 令和3年1月20日(水)~2月1日(月) 1月26日(火)は休館日

【会 場】 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

【入場料】500円 (障害者手帳をお持ちの方と付添いの方2名、65歳以上、および学生は無料)

## 出品要項(概要)○搬入締切:令和2年11月13日(金)

#### 《新春展Ⅰ》

【寸 法】タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。 全紙以上。但し参与以上は全紙以下も可。 篆刻、刻字、巻子・折帖作品は上記サイ ズ外。

【特 典】作品を掲載した産経国際書会代表展の図録を1冊進呈(代表展出品者のみ)

【搬 入】出品票に必要事項をご記入の上、出品料 を添えて指定表具店へ。

【出品料】①代表展=5万円

産経国際書会の役員(最高顧問、名誉顧問、常任顧問、顧問、客員顧問、参与、副会長、理事長、理事長代行、副理事長、常務理事、専管理事、理事、監事、評議員) ②審査会員、無鑑査会員=3万円



前回の新春展展示風景

#### 《新春展Ⅱ》

【出品資格】満18歳以上(産経国際書会会友含む)

【寸 法】半切タテヨコ (135cm×35cm)、全紙 2 分の 1 (79cm×68cm)

> ※搬入は未表装で出品票に必要事項を ご記入の上、藤和額装(下記作品送付 先)まで。団体の場合は一括出品をお 願い致します。出品作品はすべて展示 します、但し、規定寸法と異なる場合 には展示できない場合がありますので ご注意ください。

【出品料】2万円

【審 査】12月4日(金)

【 賞 】会友の部:会友奨励賞(賞状、副賞)、 公募の部:産経新聞社賞(賞状、副賞)、 奨励賞(賞状、副賞)

【特 典】①作品(半切タテのみ)を軸装にして 返却します。(表装料は出品料に含まれています)

②産経新聞社賞受賞者が令和3年7月に行われる第38回産経国際書展に公募で出品する場合は出品料を無料とします。

【贈 賞 式】(予定) 令和3年1月24日(日)

午後2時~午後3時 国立新美術館講堂

#### 資料請求先

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会 新春展Ⅱ係 問い合わせは TEL03-3275-8902 FAX03-3275-8974

新春展 I の作品送付先 藤和額装(株) 〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台 7-51-12 TEL045-833-5273 FAX045-833-5275



# 「日本の書200人選」を終えて



#### 常務理事 永田龍石

2018年11月、産経・読売・毎日の代表が 集まり初の「五輪企画会議」が行われまし た。読売から9名、毎日から3名、産経か ら小生(龍石)と久米麗鳳氏の2名が実務 者会として発足、総括に高木聖雨氏、座長 に井上清雅氏、副座長に山本泰鼎氏と小生 (龍石)で組織され、以降月1回の実務者 会議が銀座で開催されました。他に担当係 ごとの会議を重ね、漸く2020年4月には搬 入・陳列まで準備が整ったのですが、新型 コロナウイルス感染症拡大の影響で国立新 美術館が閉館、その後、緊急事態宣言が出 される事態となりました。しかし関係機関 との調整の結果、会期を6月11日から6月 21日に延期して実施することとなりまし た。関係者一同本当に実施できるのか不安 の中、無事、同会期で国立新美術館にて開 催する事が出来ました。

残念ながら会期中のイベント(ワークショップ・席上揮毫)は、小生も揮毫の一人でしたが、中止となりました。この展覧会の会場風景、代表作家の揮毫風景の映像はユーチューブ「日本の自然と書の心」に配信中です。



関係者内覧にて



鑑賞する萩生田光一文部科学大臣(右から5人目) と手島恭六名誉顧問(左隣り)



齋藤香坡最高顧問の作品「五輪旗」

# 佐々木先生、納谷先生、橋本先生を偲んで

## 清く 正しく 美しく



新型コロナ禍、猛暑の中、母、月花は黄泉の国に旅立ちました。百歳という天寿を全うして下さった事は私達の誇りです。安らかな母の顔を拝していると生前皆様からの公私にわたるご厚情に感謝の念で一杯になりました。昨年6月「百寿の祝

い」の時、大好きな津軽三味線の音に合わせ手拍子で喜んでいた姿が忘れられません。無邪気でカワイイ人でした。心が広くオオラカで誰からも愛され孫たちに慕われ幸せな人生であったと思います。「生涯現役・勉強・青春」がモットーで、その言葉通り入院直前に



「日々是好日」と書きたかったようですが「うまくゆかないね・・・」と朱色紙に金箔で「好日」と書きました。それが絶筆となりました。どうぞやすらかにおねむりください。合掌

常任顧問 原田圭泉

### 納谷古石先生逝く



6月25日、専管理事の鶴田秀紅女史から電話が入った。納谷古石先生が亡くなったとの涙声での一報であった。97歳の大往生であったが病気のことも聞かずお元気であったので、エ!!と言ったまま後は声も出なかった。私とは昭和45年頃、現代書作家協会在籍時代から何かとご教示いただいた仲で、今日まで心芸墨美作家協会の全国臨書摸刻展には協賛会員として参考作品のご出品をお願

いしていた。

先生は産経展でも初めから審査員として活躍され、会務では総務係として筆耕の仕事等を静かになされておられたのを覚えている。大声を出す事もなく殊更地位を求めず誠に君子然とした師表に足る書人でした。作品もそんなお人柄に相応しい凛とした若々しい作品でした。

先生長い間、ありがとうございました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌

副理事長 岩浅写心

# 橋本旭石先生を偲んで



3年くらい前、橋本先生よりお手紙を頂いた時、「私は胃癌のため胃全摘の大手術をした、残り少ない命のため日々戦っている、長い間の親交を心から感謝している」との手紙を頂き大変心配しておりました。橋本先生とは産経展の審査でよく一緒になり、審査後は夜ホテルの近くで酒を飲み交わし家族の事や書道教室の事などで他愛ない話を夜遅くまで話した事を想い出します。朝は二人

で早く起き、良く散歩にも出掛けたりしておりました。朝ホテルから審査会場へ行く時のことを 思い出しました。駅で電車を待っていると、どうも廻りの人達が私達の顔を見ながら何か話をし ているように見えましたが、私たちは知らん顔して電車に乗り込みました。ところがそこは、一 番前の車両で女性専用車両だったのです。慌てて後ろの車両に移りましたが、恥ずかしくて冷や 汗をかいたのを想い出します。

長年にわたり多大なご尽力を賜りました事、御礼申し上げます。心よりご冥福をお祈り申し上 げます。合掌

常任顧問 岩下鳳堂

# 第90回斯華会書道展

●会期 7月10日(金)~7月12日(日) ●会場 セントラルミュージアム銀座

5月に開催予定が新型コロナ禍のため7月に変更して開催 しました。今回90回展で故小野鵞堂、成鵞、成幸、之鵞をは じめ125点を展示しました。大変な中ご来場くださいました 皆様には「ゆっくり拝見できました」と笑顔をいただき感謝

しています。早く収束することを祈るばかりです。



# 第45回梓書道会展







●会期 7月11日(土)~7月12日(日) ●会場 タワーホール船堀 市原蘇水 今年は第45回という記念の節目でしたが、新型コロナ禍の影響で、 開催日の延期、出品者数の減と厳しい状況の中、実施しました。

例年、主宰にゆかりのあった文化人の書を紹介していますが、本年 はかつて一緒に書展を開いた宗左近、粒来哲蔵、上林猷夫各詩人の遺 黒に、女優の藤田三保子、漫画家の佐佐木あつし両氏にも賛助いただ き、自詠自書という課題を提供させていただきました。

# 各会書展お知らせ(産経新聞社後援)

〈令和2年9月~令和3年1月〉 ①会期 ②会場 ③代表名

#### 9月

#### 小川艸岑 小宮求茜二人展 "墨色の Impression"

- ①9月8日(火)~9月13日(日)
- ②銀座鳩居堂4階
- ③小川 艸岑

#### 第6回方號書院書画展

- ①9月24日(木)~9月29日(火)
- ②茨木市立ギャラリー
- ③久田 方琥

#### 10 月

#### 第34回世界平和交流書画作品展

- ①10月7日(水)~10月12日(月)
- ②仁寺(いんさ)アートギャラリー (韓国・ソウル)
- ③鎌田 悠紀子

#### 洸風会創立70周年記念 公募洸風会書道展

- ①10月10日(土)~10月12日(月)
- ②熊谷市中央公民館大ホール
- ③岩下 鳳堂

#### 第48回土筆会書道展

- ①10月13日(火)~10月18日(日)
- ②ふくやま美術館
- ③上村 陽香

#### 〈龍峡書道会〉蘭契展

- ①10月13日(火)~10月18日(日)
- ②鳩居堂画廊3F
- ③林 龍成

#### 第45回煌心同人書展

- ①10月15日(木)~10月18日(日)
- ②銀座かねまつホール・5F
- ③松崎 龍翠

#### 第66回あしで會選抜書作展

- ①10月30日(金)~11月1日(日) ②尼崎市総合文化センター
- ③今口 鷺外

#### 明扇書藝會第9回発表会

- ①10月31日(土)~11月3日(火·祝) ②長野市芸術館 アクトスペース
- ③長谷川 明扇

#### 11月

## 第11回書・墨・アート 渡邉麗展

- ①11月3日(火·祝)~12月6日(日) ②杉並芸術会館 座・高円寺
- ③渡邉 麗

#### 第30回遊心書道会展

- ①11月6日(金)~11月8日(日)
- ②広島県民文化センター 地下展示 室
- ③大庭 清峰

#### 2020書をならふ展

- ①11月9日(月)~11月15日(日)
- ②Gallary 鶉(じゅん)
- ③浅香 秀子

#### 尚友会2020展

①11月12日(木)~11月15日(日) ②しずぎんギャラリー[四季](沼津)

③小杉 修史

#### 第33回日書美展 併催学生公募展

- ①11月14日(土)~11月15日(日)
- ②岸和田市立文化会館 展示場
- ③樽谷 龍風

#### 第37回記念CMO展・近畿席書大会

- ①11月21日(土)~11月22日(日)
- ②藤井寺市民総合会館
- ③正川 子葉

#### 12月

#### 心芸墨美作家協会2020選抜展

- ①12月8日(火)~12月13日(日) ②セントラルミュージアム銀座 ③岩浅 写心

#### 菅原有恒 百花選詩書展

- ①12月20日(日)~12月23日(水) ②東京交通会館地下1階
- エメラルドルーム
- ③菅原 有恒

#### 第16回日本藝術文化環境書道展

- ①12月25日(金)~12月27日(日)
- ②さわやかちば県民プラザ
- ③谷 廣明

#### 第11回ボールペン字大賞

- ①12月25日(金)~12月27日(日)
- ②さわやかちば県民プラザ
- ③谷 敏正

#### 1月

#### 第37回雅涎会書展

- ①1月6日(水)~1月11日(月·祝)
- ②有楽町朝日ギャラリー
- ③一色 白泉(事務局)

# 追悼

次の先生方が黄泉につかれました。

本会でのご活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、 心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

最高顧問 佐々木月花(令和2年8月) 常務理事 澤田 香墨(令和2年6月) 名誉顧問 納谷 古石(令和2年6月) 審查会員 塩川 翅龍(令和2年6月) 常任顧問 松本 美娜(令和2年8月) 無鑑查 諸橋 翠泉(令和2年9月) 顧 問 橋本 旭石(令和2年8月) 会 友 高山 幸子(令和2年6月)

# 編集後記

新型コロナウイルスの蔓延は、あらゆることに変化を及ぼし、各書展も延期あるいは 中止となり、非日常の幕引きを余儀なくされており、戸惑うばかりです。

一刻も早いコロナの終息をこころより願うところです。

このような状況の中で、書会は、皆さんが書作を発表することにより元気づけられますように、その願いが叶いますように、という勇気ある苦渋の決断により、書展開催を決定しました。

新聞社・書会の先生方との協力体制をとり、ゆるぎない思いで開催された37回展ですが、出品数の若干の減少があったものの、会員皆さんの書展を支える力強い、熱い思いが溢れた会場でした。

本当に有難いと思いました。

困難にぶつかっても、じっくり考えて前に進んでゆくことができる書会は、これから も皆さんの絶大なる協力で発展してゆくことと確信しております。

(髙頭子翠)

(会報編集委員/髙頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邉麻衣子)

表紙:題字揮毫は風岡五城理事長

編集・発行令和2年9月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

產経新聞社事業本部內

# 産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

http://sankei-shokai.jp/

https://www.facebook.com/sankeishokai

# お願い

会員の皆様に住所・電話番号等 の変更があった場合には事務局 までご連絡くださいますよう、また、 各会書展のお知らせは早めにお 願い致します。